

キーワード：情報活用能力、小中連携、系統的、教科等横断的、広がり、相手意識

I 研究について

1 情報モラル教育に関しての本校の状況と課題

2年間を通して、情報モラル教育の研究を進めた結果、教職員の情報リテラシーや情報モラルの意識が高まり、知識も深めることができた。児童も情報モラルを自分事として捉えてきており、タブレット端末利用のルールを自己設定・修正したり、インターネットを活用する際には、複数のサイトを参考にしながら学習を進めたりするなど、多面的・多角的な見方が必要であることの認識も高まりつつある。

昨年度のアンケート調査によると、児童はインターネットトラブルには、巻き込まれた経験が少ない。また、実際に起きた場合の対応策などの具体的な対処法が「分からない」と回答した児童もいた。そのため、ICTを正しく自律的に活用できるように、低学年からの**系統的・教科等横断的**な指導、家庭への「**広がり**」をもたせるためにはたらきかけやしなやかづくりを意識しながら取り組んできた。3年次としては、更に中学校への「**広がり**」を意識した**小中連携**での取り組みに加え、情報モラル教育の**日常化**・活用型情報モラル教育の推進を目標に設定した。昨年度に引き続き、医療創生大学の中尾剛教授の指導を仰ぎ、テーマを絞って本校職員全体でさらに指導力の向上を目指すこととした。

2 実践概要（授業実践、授業研究会等）

時 期	実 施 内 容
5月26日	○第1回 校内研修「ふくしま情報モラル診断システムの活用」について
6月23日	○第2回 校内研修 「情報活用能力（情報モラルを含む）アンケートの結果」について
7月14日	○第1回 校内授業研究会 第2学年 学級活動 指導助言者 医療創生大学 中尾 剛 様
9月 4日	○ふくしま「未来の教室」授業充実事業 第1回 地区別研究協議会（相双地区）…実践発表
11月15日	○食育講演会 「メディアと生活習慣について～心も体も健康に暮らすために～」 講師 いちかわクリニック 小児科 市川 陽子 様
11月17日	○第3回 校内研修「情報活用能力育成年間計画の充実」について
11月24日	○第2回 校内授業研究会 第4学年 国語科 指導助言者 医療創生大学 中尾 剛 様
2月 6日	○ふくしま「未来の教室」授業充実事業 第2回 地区別研究協議会（相双地区）
2月16日	○第4回 校内研修「実践のまとめ」について

Ⅱ 研究の実際について

1 校内外での実践等

(1) 校内研修（計4回実施）

① 第1回 校内研修「ふくしま情報モラル診断システムの活用」

今年度から運用が開始された「**ふくしま情報モラル診断**」の活用について研修を行った。5つのカテゴリー（情報社会の倫理、法の理解と遵守、安全への知恵、情報セキュリティ、公共的なネットワーク社会の構築）別の正答率やアンケート結果から容易に実態を把握することができ、各教科等において適宜指導することができることを共有し、毎学期実施することを確認した。

② 第2回 校内研修「情報活用能力（情報モラルを含む）アンケートの結果」

本校児童を対象に実施した「情報活用能力（情報モラルを含む）アンケート」の分析結果の報告と実態把握を行い、各学年における「情報モラル教育」に関する指導内容の検討や年間の見通しをもてるように確認をした。

③ 第3回 校内研修「情報活用能力育成年間計画の充実」

児童の**情報活用能力（情報モラルを含む）**の育成を図るために、年間計画を作成している。情報活用能力を4つのスキル（活動スキル、探究スキル、プログラミング、情報モラル）に分け、教科名・単元名を明記しており、学年ごとに確認し、弾力的に指導できるようにしている。次年度に向けて、各学年で見直し、新たな実践等を加筆修正した。

④ 第4回 校内研修「実践のまとめ」

令和5年度に実施した各学年の「情報モラル教育」の取り組みについて、全体で共有し、来年度の課題を把握した。

(2) 上学年児童と保護者対象の講演会（11月15日実施）

講師 いちかわクリニック 小児科 市川 陽子 様

講演 「メディアと生活習慣について～心も体も健康に暮らすために～」

食育講演会として、メディアと健康をテーマに講演していただいた。テレビやスマートフォン等の利用時間とテストの点数との関係性や長時間利用によって脳の働き（前頭前野）にどのような影響があるかなどについて話があった。具体的なデータや医学的な根拠と結び付けながら話していただき、インターネット等を含んだメディアの正しい使い方や規則正しい生活習慣を身に付けることの重要性について理解を深めることができた。



(3) 新地町立尚英中学校との小中連携（9月21日実施）

学級活動「理想的な時間の使い方」

本校の5・6年生と尚英中学校の1年生が交流し、**キャリア教育と情報モラル教育**を組み合わせ実践を行った。

児童には、タイムマネジメント表に1週間の過ごし方を記録してもらい、中学生との交流学習の中で、それぞれの1日の過ごし方に着目し、見直すよき時間やこれからの生活で必要だと思うことなどを考えた。その中で、メディアの利用時間や空いている時間を見直し、よりよい時間の過ごし方にする必要があると気付くことができた。さらに、その時間を見直し、改善したことにより、空いた10分、20分でできることや自分のやりたいことを考え、隙間時間に取り組むリスト（できること・やりたいこと）を組み込んで、約1ヶ月間チャレンジした。



その結果、児童は限られた時間を有効に使うことを意識し、これからの自分のためになることをしたいという意欲が高まった。▼児童の感想

<p>やってみて変化があったことをかいてみよう</p> <p>聞いている時間がないから心配いさ白学は文字をして自分のためになるような事をしていきたいと思います。</p>	<p>やってみて変化があったことをかいてみよう</p> <p>いつもより、時間の使い方が生活のしかたに意識して生活してきた。これからより良い生活に心がけていきたい。</p>
--	--

(4) 校内授業研究後の講話（7月14日、11月24日実施）

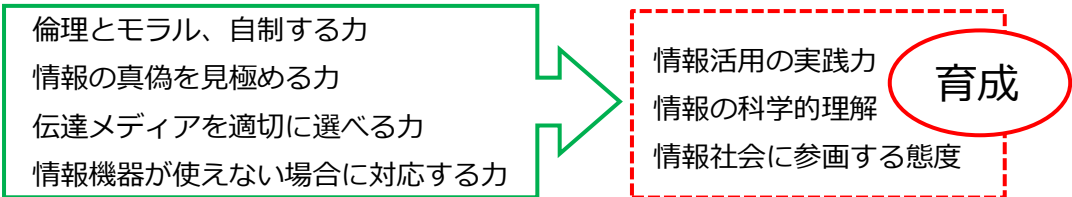
講師 医療創生大学 教授 中尾 剛 様

① 「デジタル・エチケットの指導法～デジタル・シティズンシップ教育の視点から～」

- ・ 子どもたちが試行錯誤、議論する
- ・ 子どもたちが意見を述べ、説明する
- ・ 価値観にはズレがあることに気付かせる
→デジタル・エチケットに限らず、人の価値観には異なることを相互理解し、寛容さをもつことが必要になる。







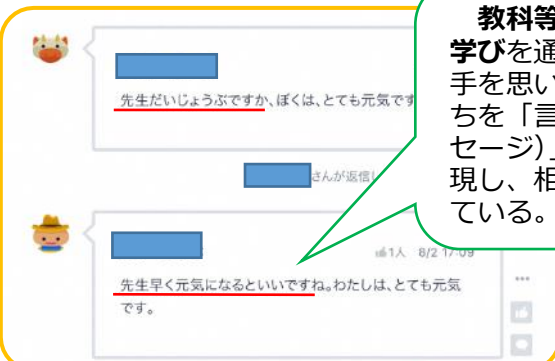
② 「これからの情報化社会で生きるために身に付けておきたい力」



今後の情報化社会で生きるために必要な教育として「**情報モラル教育**」「**メディアリテラシー教育**」「**デジタル・シティズンシップ教育**」の重要性を学んだ。

2 校内授業研究会での実践等






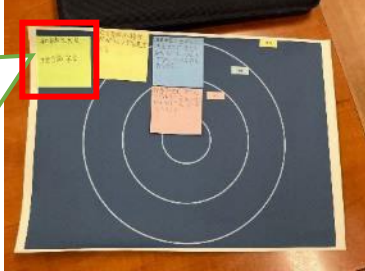
(1) 第2学年 学級活動「ネット上のマナー」の実際

学習内容・活動	授業の様子等
<p>【授業テーマ】 情報機器を使ってメッセージのやり取りをする体験を通して、メッセージを送るときには、言葉遣いに気を付け、相手に対する温かい心や思いやりをもって書こうとする態度を育てる授業</p> <p>1 自分の生活を振り返り、課題意識をもつ。</p> <p>2 悪い例とよい例を比べ、メッセージについて考える。 ○ ネットの特徴とは？ ○ 学んだことは？</p> <p style="text-align: center;"></p> <p style="text-align: center;">インターネットについての知識・技能</p> <p>3 図画工作科の学習を振り返り、友達の作品にメッセージを送り合う。 教科等横断的な学び 思考力・判断力・表現力</p> <p>4 学習を振り返り、今後のめあてを考える。</p> <p>○ 事後活動【夏休み中】 発表支援ツール内のチャット機能を活用し、実際にメッセージを送り合い、実践的な活動を行った。  家庭での実践</p>	<p>○ 児童に、「悪い例のメッセージ」を実際に送ることで、送られてきたときの嫌な気持ちに気付かせ、本時の課題意識につなげることができた。</p>  <p>○ 事前の道徳科で学習した「インターネットの特徴」などを確認したことで、メッセージを送り合うときの活動時に、意識させることができた。(教科等横断的)</p> <p>○ 子どもたちが考えたメッセージを提示し、そのメッセージのよさを考え、話し合ったことで、相手を思いやる気持ちの重要性に気付くことができた。(相手意識)</p> <div style="border: 2px solid green; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>どんなメッセージを送ったら、喜んでくれるかな？</p> </div>  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>しんぶんしをほそく丸めてけんをつくってすごーい！</p> <p>👍 いいね！ 返信 削除</p> </div> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ちゃんと王かんのかたちが<u>すごーく</u>わかってすごーいね。</p> <p>👍 いいね！ 返信 削除</p> </div> </div> <div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>教科等横断的な学びを通して、相手を思いやる気持ちを「言葉（メッセージ）」として表現し、相手に伝えている。</p> </div>

(2) 第4学年 国語科「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう」の実際

【授業テーマ】

適切に情報を判断・収集する方法を理解し、インターネット等を活用しながら、課題を解決することができる授業

学習内容・活動	授業の様子等
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○ 「誰のために作成するのか」という教師の問いかけにより、相手意識をもちながら取り組むことができた。</p> <p>○ 調べ方の手順を確認することで、見通しをもって活動することができた。</p>
<p>2 学習課題を解決する。</p> <p>(1) 調べることや調べ方について確認し、様々な方法で調べる。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p style="text-align: center;">インターネットと 図書のそれぞれのよさ 知識・技能</p> <p>(2) 調べたことが十分か、分かりやすいかを確認する。</p> <p>(3) 調べる点を再確認し、改めて様々な方法で調べる。</p>	<p>○ 児童に「調べるときに気を付けることは何か」問いかけ、複数の情報源や公的なサイト(信頼性)を確かめることに留意しながら取り組むことができた。</p> <p> ○ 児童に「調べるときに気を付けることは何か」問いかけ、複数の情報源や公的なサイト(信頼性)を確かめることに留意しながら取り組むことができた。</p> <p> 新地町図書館と連携し、「伝統工芸」に関する図書を複数冊取り入れた。 →複数の情報源 情報を比較する</p> <p> 奥会津の編み細工には、こんなに魅力があるのか！この資料はどうだろう？</p>
<p>3 本時の活動の振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p style="text-align: center;">思考力・判断力・表現力</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">終わり 中 初め</p> <p>曲げわっぱは、秋田県大館市で作られる木工品です。木工品とは、木で作る工芸品で、大館曲げわっぱは、秋田県大館市で作られています。ここでは、大館曲げわっぱのとくちようを紹介いたします。</p> <p>その一つは、「使いやすい」です。大館曲げわっぱは、使われる秋田杉は、木目が柔らかいため、けずり方一つで使いやすくなります。例えば、お弁当箱の角を削ると、ご飯粒がついたときにしやもじがうまく入り、取れやすくなります。また、「美しさ」も大館曲げわっぱのとくちようです。曲げわっぱは、一枚の秋田杉の板を熱湯につけてやわらかくしてから、曲げます。そのため、柱目がかさねに見え、美しさを、漆器などに使われます。</p> <p>このように、大館曲げわっぱは、とても使いやすく、美しいです。なのでみなさんに、大館曲げわっぱを覚えてみてください。</p> </div> <p>○ インターネットや書籍などから必要な情報を探し出し、リーフレット完成に向けて文章を作成した。</p> <p>3つの構成の中には、伝統工芸品のよさや特徴、魅力などを書き入れ、読み手を意識した文章を書くことができた。→情報活用能力の育成</p> <p> 出典の記載 自分の調べた情報の裏付け(根拠)となる書籍名や著作者などの情報を記入している。</p>	

Ⅲ 成果と課題について

1 成果

- 2回の校内授業研究を通して、低学年からの系統的な指導や教科等横断的な指導について研修を深めることができた。
- 講師の中尾剛先生には、授業参観・事後研究会での指導助言、教員対象の講話をいただき、今後の情報化社会やデジタル・シティズンシップ教育を踏まえた実践などの取り組み方や在り方について教職員全体で学ぶことができた。
- 小中連携として、同町内にある尚英中学校と交流学习をすることができた。「タイムマネジメント」をテーマに学習を進め、中学生の生活と比較しながら、進学に向けたキャリア教育と結びつけて学習することができた。
- 情報活用能力の育成に向けて、教員の知識や意識が高まった。各教科や特別活動、健康教育からのアプローチがあり、様々な担当・立場から情報モラル教育を意識した教育活動が見られるようになった。

2 課題

- 情報活用能力育成計画内に教科指導等を位置付け、年度ごとに更新している。今後もその指導の定着を図り、個人の実践にとどまらず、使用した教材等を学校全体で共有し、次年度以降も持続可能な形で実践していく必要がある。
- 保護者や地域から必要感のある情報モラル教育講演会や授業参観等の実施をしていく必要がある。健康、依存、心理など様々な面からのアプローチが必要になる。
- 小中連携を持続可能な形で計画していきたい。本校では、今年度、新たに小中連携を実施することができたが、同地区内の他校にも実践できるような取り組みになるようにしていく必要がある。

【引用文献・参考文献・参考 URL】

- ・ 文部科学省（2017）。「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」。
- ・ 文部科学省（2017）。「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」。
- ・ 文部科学省（2017）。「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」。
- ・ 文部科学省。「学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成〈体系表例とカリキュラム・マネジメントモデルの活用〉」。
https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt_jogai01-100003163_1.pdf（参照 2023/12/1）。
- ・ 文部科学省。「(リーフレット) GIGA スクール構想の実現へ」。
https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf（参照 2023/6/23）。
- ・ ふくしま情報モラル診断問題作成等委員会。「ふくしま情報モラル診断」。
<https://fukushima-infomoral.jp/general>（参照 2023/11/24）。
- ・ 樋口綾香（2022）。「『自ら学ぶ力』を育てる GIGA スクール時代の学びのデザイン」.東洋館出版社。
- ・ 札幌市立幌北小学校（2022）。「事前指導から授業例まで GIGA スクールの1人1台端末活用アイデア100」.明治図書。
- ・ 堀田和秀・津田泰至（2022）。「『禁止・制限』より『安全な使い方』を教える！ GIGA スクール時代の『ネットリテラシー』授業プラン ワークシート付き」.学芸みらい社。